

大学等における 持続可能な地域づくりの担い手育成検討会 第3回：国際連携PBLの推進

東洋大学におけるPBLの実践
国際学部・国際学研究科を中心として

東洋大学国際学研究科 教授 北脇秀敏



(研究室HP)

- URL: <https://kitawakitoyo.wixsite.com/Kitawaki-lab>

- 学生ニュースレター: <https://kitawakitoyo.wixsite.com/kitawaki-lab/publications>

(連絡先)

- e-mail : kitawaki@toyo.jp

本日の内容

1. 国際学部におけるPBL実践の概要

1. 1 グローバルイノベーション学科

1. 2 国際地域学科国際地域専攻

1. 3 国際学部のPBLと連携した海外研修

1. 4 北協研究室の学部生PBL

2. 大学院国際学研究科でのPBLを通じた研究と人材育成

2. 1 JICA海外協力隊との連携(研究科ベース)

2. 2 JICA技術協力プロジェクトとの連携

2. 3 外国人留学生の受け入れ(専攻ベース)

2. 4 国際教育の嚮

1. 国際学部におけるPBL実践の概要

1. 1 グローバルイノベーション学科

スーパーグローバル大学創成支援事業に合わせ設立
英語トラックのみ・全員長期留学が義務

1. 2 国際地域学科国際地域専攻 ← 今回の中心

日本語トラック(大半)と英語トラック

1997年の設置(当初国際地域学部)以来現場主義(国内・国外)

国際関係・開発政策領域
International Relations & Development Policy Field

経済地理学
法学入門
政治学
ヨーロッパの政治と国際関係
国際関係論
国際協力論
国際政治学Ⅰ
ミクロ経済学Ⅰ
マクロ経済学Ⅰ
農村地域開発論
Participatory Development

比較文化領域
Comparative Culture Field

文化人類学入門
開発と異文化理解
タイの地誌と文化
インドネシアの地誌と文化
中東の地誌と文化
米州地域研究A
非営利組織の経営
Volunteers for Cultural Exchange
Introduction to Geography
Japanese Economy and Business
International Student Mobility

コミュニティ・地域政策領域
Community & Regional Policy Field

地方自治論
地域社会学
社会保障論
地域デザイン入門
都市論
An Introduction to Welfare Society
農村地域研究A
非営利組織の経営
Volunteers for Cultural Exchange
Introduction to Geography
Japanese Economy and Business
International Student Mobility

環境・情報・インフラ領域
Environment, Information & Infrastructure Field

国際インフラ入門
環境マネジメント
国際環境計画入門
災害と復興
自然災害と防災
Introduction to Environmental Studies
Japanese Experiences on Environmental Management

グローバル・イノベーション分野
Global Innovation Studies Field

International Social Contributions
Introduction to Global Politics
Role of International Organization
Introduction to International Relations
New Perspectives on Globalization
Multinational Corporations and the Global System
Financial Accounting
Introduction to Finance
Introduction to Japanese Economy and Society
Introduction to Global Studies
Globalization and Japanese Cultures
Introduction to Journalism

Language and Communication Skills

English
Japanese
Chinese
Korean
French
German
Spanish
Other Languages

Academic Skills

国際地域学基礎Ⅰ Introduction to Regional Development Studies Ⅰ
国際地域学基礎Ⅱ
情報入門 Introduction to Data Science
データ解析演習 Exercises in Data Analysis
情報パブリッシング

必修ゼミナール
Seminar

入門ゼミナール Introduction Seminar
プロジェクトゼミナール Project Seminar
専門ゼミナールⅠ Seminar I
専門ゼミナールⅡ Seminar II
専門ゼミナールⅢ Seminar III
専門ゼミナールⅣ Seminar IV

Project Study 他

PS 入門
国際地域学研修（国内）Ⅰ
地域社会実習（国内）Ⅰ

レベル1 第1学期

レベル2 第2学期

レベル3 第3学期

カリキュラム
マップ

人文地理学
市民社会論
国際政治学Ⅱ
ミクロ経済学Ⅱ
マクロ経済学Ⅱ
国際経済学
開発経済論
アジア経済論
Politics and Society in Japan
International Politics

宗教と社会
比較芸術論
米州地域研究B
アジア地域研究
中東地域研究
Sociology of Islam
Immigration and Cross-cultural Issues
World Cultures and Communities

行政学
社会調査法
NGO・NPO 論
地域福祉論
地域デザイン基礎演習
コミュニティ開発論
都市計画
まちづくり論
Community Studies
Housing the Poor in Asia

情報マネジメント
アジアの都市と交通
環境社会学
環境管理適正技術論
廃棄物・資源循環
環境システム論
エネルギー・資源論
地域開発と自然
Urban Development History of Tokyo
Cities and Transport in Asia
Natural Disasters and Disaster Risk Management
Global Water Problems

Introduction to Entrepreneurship
Social and Solidarity Economy, NGO and Social Enterprise
International Organizations and Global Security
International Conflict Resolution
Cross-border MSA and Global Management
Comparative Political and Economic Systems
Asian Economic Development and Japan
Globalization and Japan
Comparative Cultural Studies

留学支援科目（LEAP） * 基礎教育 Liberal Arts

データ解析演習 Exercises in Data Analysis
情報パブリッシング

プロジェクトゼミナール Project Seminar
専門ゼミナールⅠ Seminar I
専門ゼミナールⅡ Seminar II
専門ゼミナールⅢ Seminar III
専門ゼミナールⅣ Seminar IV

国際地域学研修（海外）Ⅰ
国際地域学研修（国内）Ⅱ
フィールド調査実習（SFS 海外）Ⅰ
フィールド調査実習（SFS 国内）Ⅰ
地域社会実習（海外）Ⅰ
地域社会実習（海外）Ⅱ
地域社会実習（海外）Ⅲ
地域社会実習（海外）Ⅳ
地域社会実習（国内）Ⅱ
地域社会実習（国内）Ⅲ
地域社会実習（国内）Ⅳ
国際地域特別学習（海外）A
国際地域特別学習（国内）A

レベル2 第2学期

レベル3 第3学期

都市地理学
国際政治学Ⅱ
Southeast Asian Studies
Japan and the World Economy

ジェンダー論
家族社会学
アフリカ地域研究

公共経営論
社会政策論
福祉社会学
地域デザイン演習
都市住宅論
地域再生論
Public Administration and Management
Urban and Regional Planning in Asia

インターネット・情報技術実習
データベース概論
交通まちづくりの計画と政策
国土計画・地域計画
Environmental Issues in Asia
Practice of Internet Technology

卒業論文 Graduation Thesis

卒業論文 Graduation Thesis

卒業論文 Graduation Thesis

卒業論文 Graduation Thesis

国際地域学研修（海外）Ⅱ
国際地域学研修（国内）Ⅲ
国際地域学研修（国内）Ⅳ
フィールド調査実習（SFS 海外）Ⅱ
フィールド調査実習（SFS 国内）Ⅱ
国際地域特別学習（海外）B
国際地域特別学習（国内）B

レベル3 第3学期

レベル3 第3学期



国際学部 国際地域 学科 Learning Journey マップ

世界の現場から「問い」を生み出し、複眼知と行動で地域を動かす「越境人材」の育成

GOAL ①

4年間の学びを「統合」
自ら問いを立て、複眼知
と行動で未来を拓く

☆マップを支える3つの柱☆

- ・クォーター制:専門科目の週2回授業や、留学・研修への柔軟な参加を可能に
- ・4つの「あいだ」を行き来する「越境学習」と4つの専門領域の「深い学び」
- ・国内外の多文化環境で共に学び、「問う力」と「複眼知」を磨く



越境学習

STEP ①

国際地域学の「扉」を
開き、学びの作法の習
得と幅広い関心をもつ

アウェイ(国内外の地域現場)

STEP ②

4専門領域・20ゼミ
から自分の「問い」
を深める

短期集中英語実習ShIP
・マレーシア
・フィリピン
・カナダ
3Qまたは春の
5週間の英語経験学習
(Experiential Learning)

STEP ③

世界と地域の現場を
複眼的に理解する

中長期海外留学
国際地域学研修(海外)

国際地域学研修A
東京都空間表現
東京都利島村離島地域づくり
埼玉県小鹿野市地域づくり
石川県志賀町復興支援
島根県江津市/大田市
福島県いわき市震災記憶
タイ内発的発展
トンガ、フィジー環境防災文化
COIL(マレーシア)研修

国際地域学研修B
豊島区の多文化共生
島根県海士町地域づくり
石川県志賀町復興支援
福島県川内村地域づくり
秋田県五城目町地域づくり
山梨県早川町まちづくり
イタリア防災まちづくり
タイ産学連携

一般企業
地方企業
NGO
公務員

地域社会実習
小田原市役所インターン
学習支援ボラ
子ども若者支援ボラ

必修の卒業論文

国際学研究科進学
・豪カーティン大学DD
・海士町地域創生マ
スター・プログラム
・JICAボランティア

専門ゼミ

ホーム(大学キャンパス内)

AI × 英語学習

88の専門科目
(25は全英語授業)

「あいだ」を探求する
国際地域学科の学び

国際関係・開発政策

・国際政治・開発経済

比較文化領域

・文化人類学・地域研究

コミュニティ・地域政策

・まちづくり・地方自治

環境・情報・インフラ

・環境・自然災害・交通

地域から世界へ
(Think Local, Act Global)

世界から地域へ
(Think Global, Act Local)

1

学びの作法習得と異文化への第一歩

ホーム(大学):「国際地域学基礎」や「プロジェ
クト・スタディ入門」で学科の全体像や調査法を把
握。「情報入門」や少人数の「入門ゼミナール」で
基礎スキルを磨く。
アウェイ(海外):5週間の「短期集中英語実習
(ShIP)」に挑戦し、異文化環境で英語を駆使した
経験学習を実践する。

2

国際地域学の
「扉」を開く

4領域の探求とプロジェクトの始動

ホーム(大学):4つの専門領域(国際関係・開発
政策、比較文化、コミュニティ・地域政策、環境・
情報・インフラ)における「深い学び」の開始。
アウェイ(地域現場):「プロジェクトゼミナール」
に所属し、より専門的かつ実践的な学びを開始
する。国内外の国際地域学研修に参加し、世界
と地域課題のリアルを学ぶ。

2年秋

「広さ」から
「深さ」へ

3

越境学習の深化と研究テーマの具体化

ホーム(大学):少人数の「専門ゼミナール」で、
地域の現場での深い学習や、卒業論文に向けた
先行研究の検討や調査設計を行う。
アウェイ(国内外の多様な地域):中長期海外留
学や、島根県海士町をはじめとする過疎地域、
東北や能登の被災地などの最前線に身を置き、
これまでの学びを地域課題解決の現場で活か
す。

4

学びの集大成と未来への飛躍

ホームとアウェイの「統合」:4年間の往還で掴み
取った「泥臭い実践知」と複眼知とデータを駆使し、
必修の卒業論文に結実させる。
国内外の多様な一般企業、地方企業への就職(U/I
ターン)、NGO、公務員など、世界と地域の「あいだ」
をつなぐ越境人材として、社会へ進出する。さらに
国際学研究科のカーティン大学DD、海士町地域創
生マスター・プログラムで学びを深める。

世界と地域の
未来を拓く

出典:鈴木鉄忠教授

1. 3 国際学部 のPBLと連携した海外研修

(1) 現地研修等

国際地域学研修: 国内外の現地プロジェクトへの参加など

SFS(Student-led Field Study): 学生が自ら国内外の調査を計画・実施

海外特別長期インターンシップ: ワシントンセンター等

(2) PBL型語学研修

ShiP(Short Intensive Program): 中期留学

海外協定校(フィリピン、マレーシア等)の教員、学生と現地調査

従来の語学留学に付加価値を付けPBLや経験学習の要素を盛り込む

(3) 北脇が担当したShiP (2021年全員海外研修が必須だったがコロナ禍)

- ①学生は全ての過程を英語ベースで作業
 - ②オンデマンドコンテンツ(フィリピンの環境問題)を視聴
 - ③PCM手法により現地の状況を把握し、問題分析からプロジェクトの提案まで作業
 - ④語学・補足はフィリピン人講師とリアルタイムオンラインで作業
 - ⑤フィリピンの提携大学の学生とはオンラインで交流
 - ⑥学生グループワークによる発表会開催
- バーチャルでも「国際連携PBL」の可能性を示唆



Slum (Informal Settlement)



Environment (Solid Waste Management)

(4) 国際連携PBLの課題と対策

- 学生全員に海外研修を卒業要件とすることの難しさ
2017カリ: 4単位必修→2021カリ: 2単位必修→2025カリ: 必修外
- 経済面(費用負担)のバリエーション
→ [東洋大学海外留学促進奨学金「アクティブ型」](#)を利用
- 学生の健康・心理面でのバリエーション
→ コロナ禍の経験からバーチャルでの「国際連携PBL」も
- 派遣期間確保の難しさ→クォーター制の導入
- 学生の語学能力の格差→底上げと能力向上へのインセンティブ
- 教員の負担(専門分野やフィールドに依存)

1. 4 北脇研究室の学部生PBL

(1) 途上国のフィールドへのリサーチツアー(学生引率現地調査)

- ・本研究室では「スタディツアー」でなく「リサーチツアー」と称する
- ・教員が参加する科研プロジェクト、技術協力、NGOとの連携など
- ・さまざまなプロジェクトに同行
- ・現地滞在の協力隊員(卒業生)とも意見交換
- ・ツアーは合計29回実施

訪問国は中継国(重複計上)を含みバングラデシュ20回、

タイ10回、ベトナム5回、ミャンマー・中国各3回、

マレーシア、シンガポール各2回、東チモール、カンボジア各1回

(2) リサーチツアーから研究へ (テーマは[学生ニュースレター](#)で)

志願制の参加のためモチベーションが高い

(全員強制参加の場合は現地の状況を深刻に捉えない人も散見)

リサーチツアー



卒業論文テーマ



大学院での研究・修士論文／博士論文執筆



国際協力人材へ発展(研究者、JICA・NGO職員、開発コンサルタント等多数)

卒論で当該国を対象にする人はリサーチツアー参加学部生が多い

修士論文はJOCV参加者やJICA開発大学院連携等による留学生が多い

(次ページ参照)

北脇研究室ゼミ生の海外PBL等に基づいて作成した学位論文

- ・ 卒論、修論、博論、2026年9月予定まで累計（卒論の多い順にソート）

国名は研究対象国で■はリサーチツアー実施国、■はJOCV学生派遣国、■はJICA大学院連携等の留学生受け入れ国（2色は両方該当）

バングラデシュ : 卒論 17 修論 6 博論 3

ミャンマー : 卒論 15 修論 2

ベトナム : 卒論 11 修論 1 博論 1

中国 : 卒論 9 修論 10 博論 2

フィリピン : 卒論 6

途上国全般 : 卒論 5 修論 1 博論 3

スリランカ : 卒論 5

タイ : 卒論 3

カンボジア : 卒論 3 修論 8 博論 1

韓国 : 卒論 3

メキシコ : 卒論 2

マラウイ : 卒論 1 修論 4

モザンビーク : 卒論 1 修論 2

台湾 : 卒論 1 修論 1

インドネシア : 卒論 1

マレーシア : 卒論 1

コートジボアール : 卒論 1

モンゴル : 卒論 1

ラオス : 卒論 1

→リサーチツアーは学部生のフィールド研究に貢献

北脇研究室ゼミ生が海外PBL等に基づいて作成した学位論文数

- 修論、博論のみで対象とされた国、2026年9月修了予定まで累計
国名は研究対象国で■はJOCV学生派遣国、
■はJICA大学院連携等の留学生受入れ国

タンザニア：修論4

ルワンダ：修論3

ボツワナ：修論2

パナマ：修論2 博論1

モロッコ：修論1 博論1

ケニア：修論1 博論1

パプアニューギニア：修論1 博論1

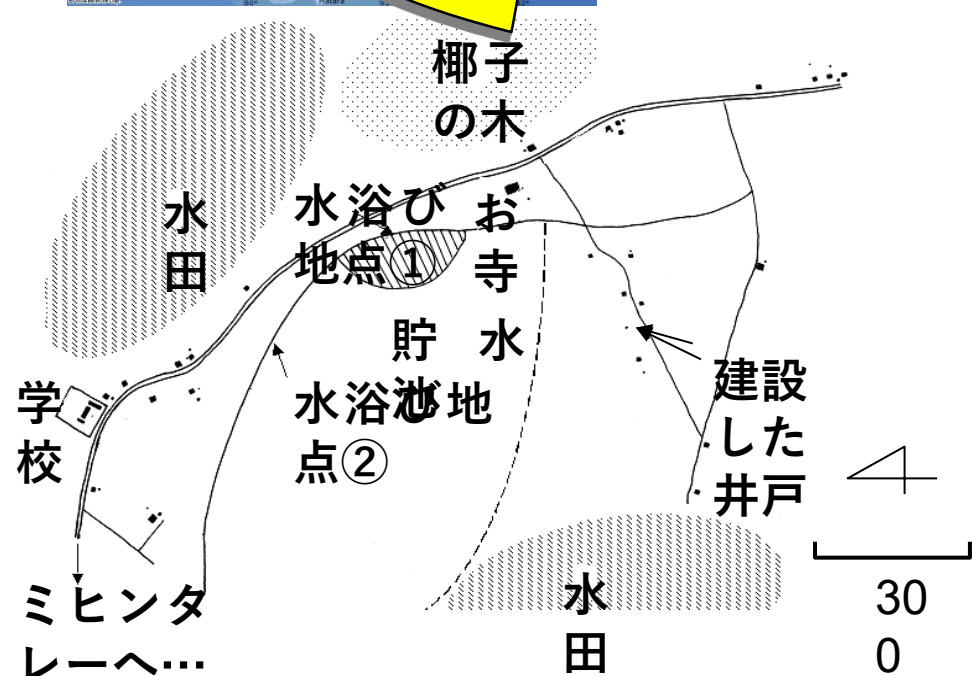
修論1のみの国：

ニカラグア、エクアドル、ボリビア、ドミニカ共和国、南アフリカ、フィジー、イラク、南スーダン、スーダン、ナイジェリア

→協力隊員とJICA大学院連携による
留学生は学生のダイバーシティと
国際協力促進に貢献

(3) NGOとの連携(スリランカで卒論を書いた5名はNGOのスタディツアー組)

OWOP: スリランカにおける井戸掘削プロジェクト



T.Uさん卒論 「スリランカ村落部における井戸発掘プロジェクトの効果に関する研究」より

2. 大学院国際学研究科でのPBLを通じた研究と人材育成

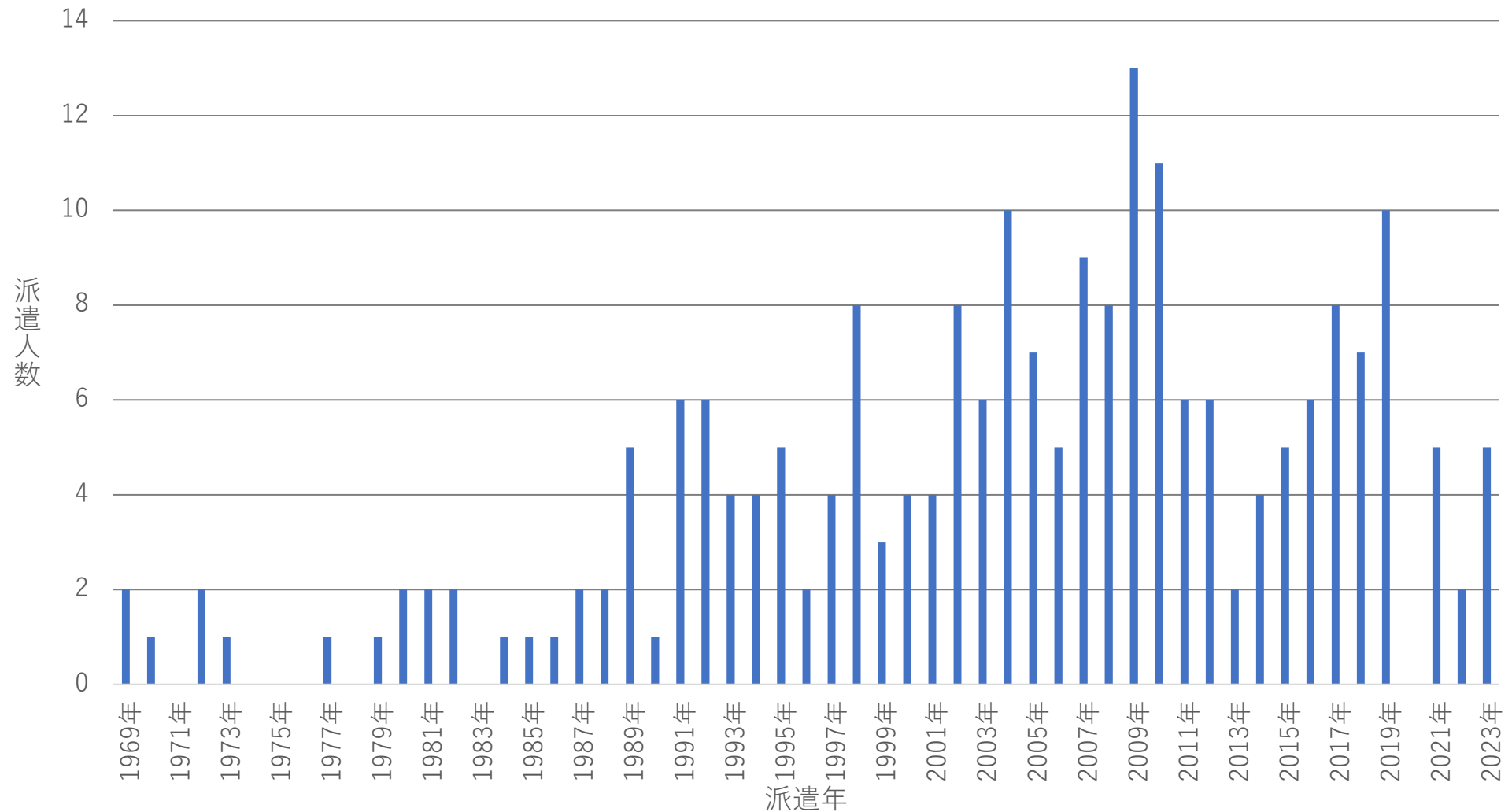
2. 1 JICA海外協力隊との連携

- 北協はJOCV技術補完研修や技術専門委員（廃棄物処理職）を1993年以来務める
- 廃棄物処理職、環境教育職、保健等の分野の隊員を約千名送り出した
- 東洋大学（OBを含む）からは200人以上がJOCVとして渡航
→隊員が帰国後大学院に入学する際のタイムロスを防ぐため
派遣中に在学するシステムを設立
- 国際地域学専攻で**JICAボランティア入試制度**
JICA海外協力隊 連携派遣とは異なる
(JOCV合格者に対しては面接のみで合否判定)
- 長期履修制度との組み合わせで2年間現地でオンライン指導と
帰国後1年の計3年の在学で授業料は2年分のみ
- 北協ゼミ生は10名以上がこの制度で派遣済

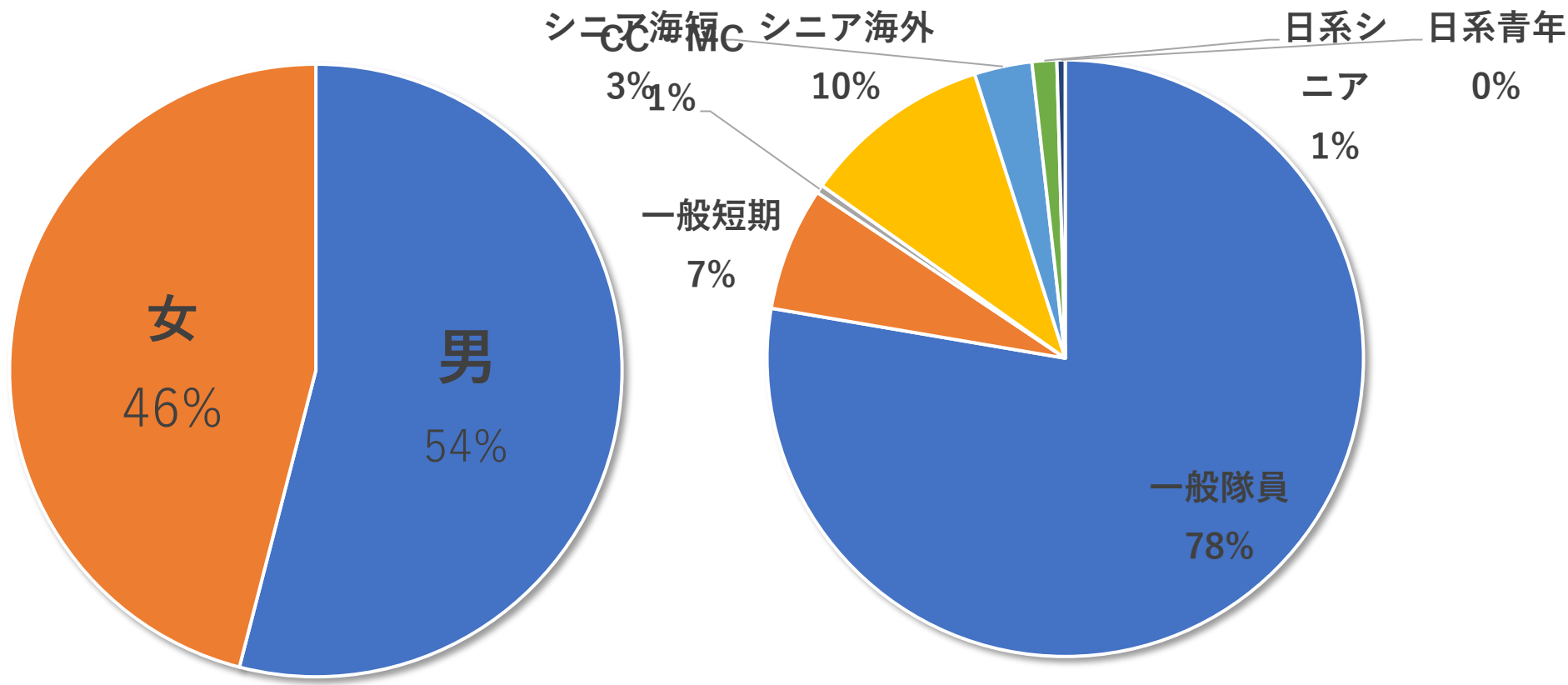


研究室ドアのJOCV募集ポスター
(学生が募集のモデル)

東洋大学からのJICAボランティア派遣実績



男女構成比及び隊員区分



男女構成比

隊員区分別構成比

授業風景（日本側の帰国学生と共に授業）



テレビ画面はボツワナ隊員
（廃棄物処理職）のM.Y.さん

手前右は元パナマ隊員
（環境教育職）のH.S.さん



二つの専攻でグローバル社会のリーダーを育成する

Info

学校情報

取得可能な学位

修士(国際地域学)、博士(国際地域学)
※ JICA 海外協力隊員向けの試験は
国際地域学専攻のみ

定員

博士前期課程15名
博士後期課程5名

学費

入学申込金27万円
授業料(諸費用含む)博士前期課程54万円、博士後期課程52万円

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 ☎03-3945-7251



資料請求は
こちら！

現場を直接知ることによって育つ専門性と課題解決能力

東洋大学は1887年の創立から130年以上にわたり、国内外で活躍する多くの人材を輩出してきた。現在は14学部49学科に約3万人の学生が学んでいる。

「国際学部」はグローバル・イノベーション学科と国際地域学を備え、世界を舞台に課題の解決に挑み、地域が持続的に発展を続けられるようなイノベーションを起こす人材の育成を目指している。大学院の「国際学研究所」にはグローバル・イノベーション学専攻と国際地域学専攻があり、理論と実践のバランスがとれた、より高度な専門教育を実践している。

地域開発のリーダーを育成

国際地域学専攻は、地域の発展に貢献できる専門性を持った地域開発のリーダーの育成を目指している。文系・理系の垣根を越えた学びと「現場を直接知る機会」を重視し、国内外の研究フィールドを訪れるリサーチツアーなどを積極的に実施。上下水道や廃棄物処理、都市計画、経済、文化人類学など、多彩な分野に精通している教授陣が学生の研究ニーズに応えている。

また、国際協力機構が派遣する JICA 海外協力隊に参加しながら、オンラインで研修指導を受けられる体制が整っており、隊員活動をしつつ、修士号・博士号を取得することも可能だ。科目はほぼすべてが日本

学びのニーズに柔軟に応える

大学院は社会人学生、アジアやアフリカの開発途上国からの留学生が多く、国際協力の現場や各国の現状について、直接話を聞いたり議論を交わしたりする機会が多い。

ほかの研究科の授業科目の履修、他大学大学院の授業履修、入学前の先行履修・単位互換に柔軟に対応する体制が整っていることに加え、オーストラリア・カーティン大学とは修士学位のダブル・ディグリープログラム協定を締結しており、二つの大学での学位取得が可能なのも本研究科の魅力だ。

Q 大学院選びのポイントは？

A 廃棄物処理を学ぶなら
東洋大学の教授のもとで

企業に2年間勤務した後、廃棄物処理隊員としてJICA海外協力隊への参加を決めました。しかし知れば知るほど自分の知識不足を痛感し、勉強が必要だと感じました。北協教授の著書を読みお会いする機会もあったことから、廃棄物処理の研究をするなら先生のもとでと考え東洋大学を選びました。

Q 大学院の魅力は？

A 海外に留学しなくても
異文化の学びがある

【出身地】
愛知県、三重県
【力を入れていること】
マーシャル諸島イバイ島でJICA海外協力隊の廃棄物処理隊員として活動
【好きな国や地域】
自然がきれいな地域

Q おすすめの授業は？

A 協力隊の活動を支える
オンラインでの研究指導

協力隊員として任地のマーシャル諸島にいるため、現在の授業はオンラインでの研究指導になります。現地での活動を先生と共有しながら研究テーマを考え実現可能性を見極めている段階です。活動が思うように進まないなか、「すべてが研究だ」という先生の言葉に支えられ活動を続けています。

Q 研究テーマは？

A 島しょ国における
デポジット制度の有効性

任地ではアルミ缶とペットボトルのリサイクルのためのデポジット制度が開始されました。その有効性を、環境、経済、社会の視点から調べたいと考えています。当初は環境に焦点をあてていましたが、資源循環の実現は経済的な効果に左右されると考え、経済、社会の視点を加えました。

Voice 学生の声



国際地域学専攻
三輪 久美子 さん
Miwa Kumiko

Q 今後の進路は？

A どこで働くことになっても
現地に選ばれるたい

明確に決めてはいませんが、協力隊の経験を通じて、現地を直接見て、コミュニティの人とディスカッションすることがいかに重要かを知りました。将来、仮に国連機関などで働いて開発計画を立てる側になったとしても、現場に足を運び、現地の人と同じ目線を持ち続けられる人間でいたいのです。



地域の英語教育イベントに貢献し、感謝状を受け取る三輪さん

Voice 先生の声



大学院国際学研究所
教授
北協 秀敏 先生

国際協力の実務経験者が議論を交わす学びの場

東洋大学大学院は“学内留学”といえるほど国際化が進み、多国籍、多言語、多文化の学生が集まっています。環境衛生を専門とする私の研究室には約20人が所属していますが、半分以上が留学生です。日本人には、JICA海外協力隊員やJICAの職員、JICAプロジェクトの専門家、留学生では、日本の廃棄物処理な

どを学ぶために国費で来日した政府職員など、現場で環境問題に取り組む実務経験者も多くいます。留学生の母国の課題を事例に、時間を忘れて議論することもよくあります。国際協力の現場との距離も非常に近く、実践的な国際協力を学びたいという人には、ぴったりの環境だと思います。

派遣中大学院生
(北協研究室)

博士前期課程在籍
JOCV廃棄物処理職
駐マーシャル諸島

社会人を経てJOCV
JICAボランティア
入試制度で入学

指導はテレビ会議

出典：
国際開発ジャーナル社
国際協力キャリアガイド2026

- 右：Solid waste management teamでのミーティング
- 下：分別用のごみ箱の作成終了時
- JICA技術協力（J-PRISM）等と連携
- 国際機関と調整しながら配属先の廃棄物処理計画改訂



2. 2 JICA技術協力プロジェクトとの連携

(1) BOPビジネス連携促進(オリジナル設計、岩崎電気、東洋大学)

北脇、大学院生、ゼミ卒業生(現地協力隊員)等が調査・分析、業務調整を担当
リサーチツアー実施、病院や学校等に紫外線殺菌ランプ設置・実験

目的: 紫外線殺菌ランプによる省エネ型飲料水の消毒装置普及
学術成果:

- ①卒業論文「バングラデシュにおける安全な水供給に関する研究 — 紫外線照射灯による除菌処理の評価 —
- ②卒業論文「バングラデシュ農村部における安全な水供給のBOPビジネスに関する研究
- ③卒業論文「バングラデシュにおける子供たちの衛生意識に関する研究



バングラデシュ人民共和国

バングラデシュ人民共和国
安全な水供給のための BOP ビジネス
事業準備調査
(BOP ビジネス連携促進)
報告書

平成 25 年 11 月
(2013 年)

独立行政法人
国際協力機構(JICA)

提案法人名: (代表者)オリジナル設計株式会社
(共同提案者)岩崎電気株式会社
(指導・協力)東洋大学

(2) BOPビジネス連携促進(サラヤ、東洋大学、オリジナル設計) 北脇、大学院生、ゼミ卒業生等が調査・分析、業務調整を担当 リサーチツアー実施

目的: 殺菌剤入り手洗い石鹸の現地における普及

学術成果:

- ①博士論文「開発途上国における経済状況と手洗いに用いる洗剤剤の選択に関する研究 —カンボジア貧困層を事例として—」
- ②卒業論文”A study on Hygiene Behavior in Rural Area in Cambodia”
- ③カンボジア村落部における日本企業の水処理・浄化商品の普及の可能性に関する研究
- ④ほか研究論文数本



カンボジア王国

カンボジア王国
殺菌剤入り石けん液等の普及による
衛生状況改善事業準備調査
(BOP ビジネス連携促進)
報告書
◀ 要約版 ▶

平成 27 年 2 月
(2015 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

サラヤ株式会社
学校法人東洋大学
オリジナル設計株式会社

(3) クリーン・ダッカ・プロジェクト

①協力隊員の派遣(研究室OBのN.K.さん:写真左下)

②現地派遣大学院生隊員H.T.氏(博士前期課程)の指導

修論「北ダッカ市における都市固形廃棄物収集人の収入向上の可能性に関する研究

③カウンターパートS.M.氏(大学院博士後期課程)の指導

博論”Study on the Technical Feasibility of Waste-to-Energy Incineration for Municipal Solid Waste Management in Developing Countries-Case in Dhaka City

④チョットグラム市への展開支援

修論”A Study on the Economic Viability of Material Recovery Facilities for Municipal Solid Waste in Developing Countries: A Case in Chattogram City, Bangladesh”(C.M.S.I.氏.JCCIプログラム)



収集改善



職員啓発(安全作業)



職員啓発(安全作業)



④住民説明会



⑤収集改善(コンテナ撤去)



⑥清掃事務所建設

出典:A.I.氏(元プロマネ、現博士後期課程院生)

2. 3 外国人留学生の受け入れ

JICA長期研修員、ABEイニシアティブ、Pacific Leads、JDS、JICA 開発大学院連携の水道コース、廃棄物コース等のスキームで途上国公務員を受け入れ

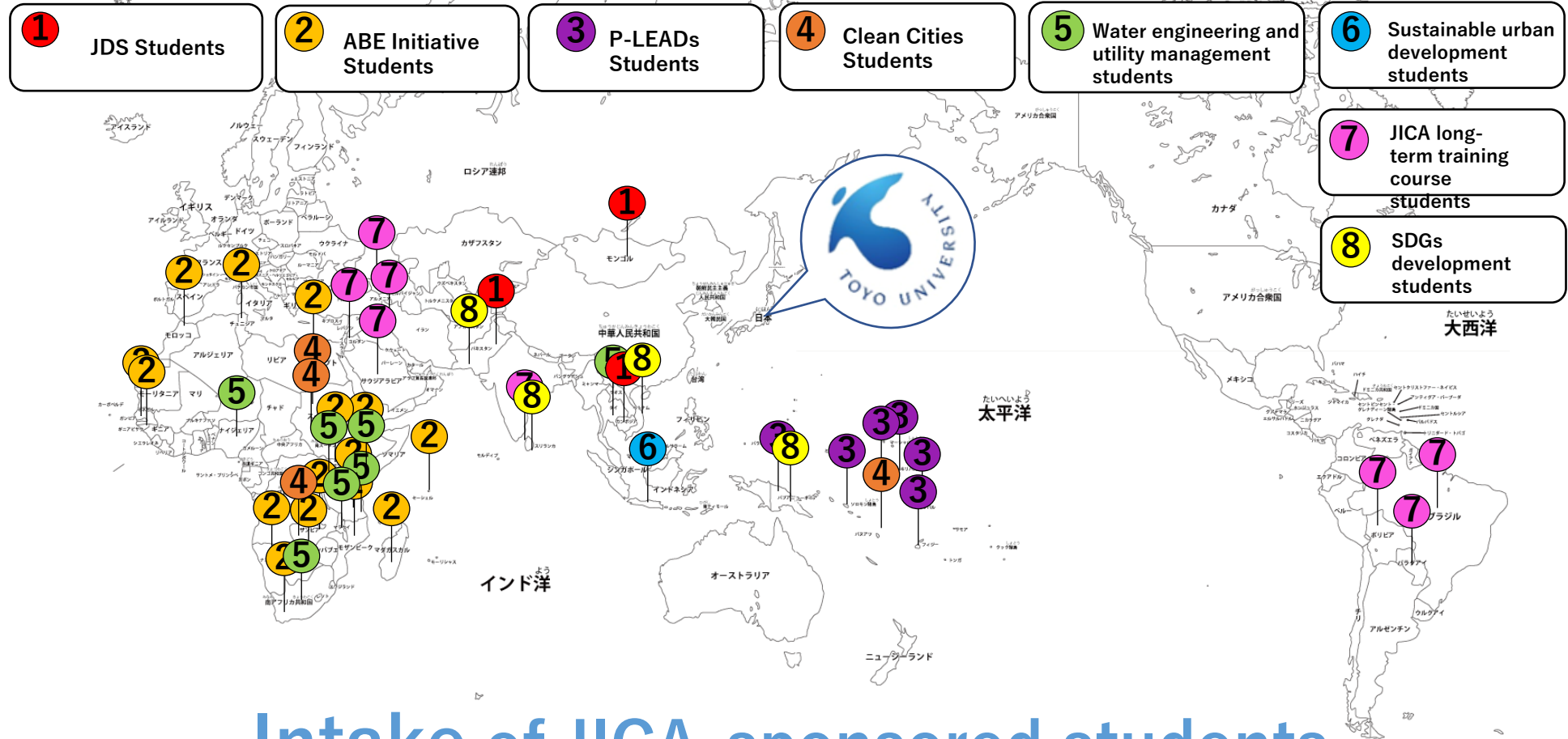


2025年 7 月 26日

2026年 7 月 25日



Graduate School of Global and Regional Studies



Intake of JICA-sponsored students



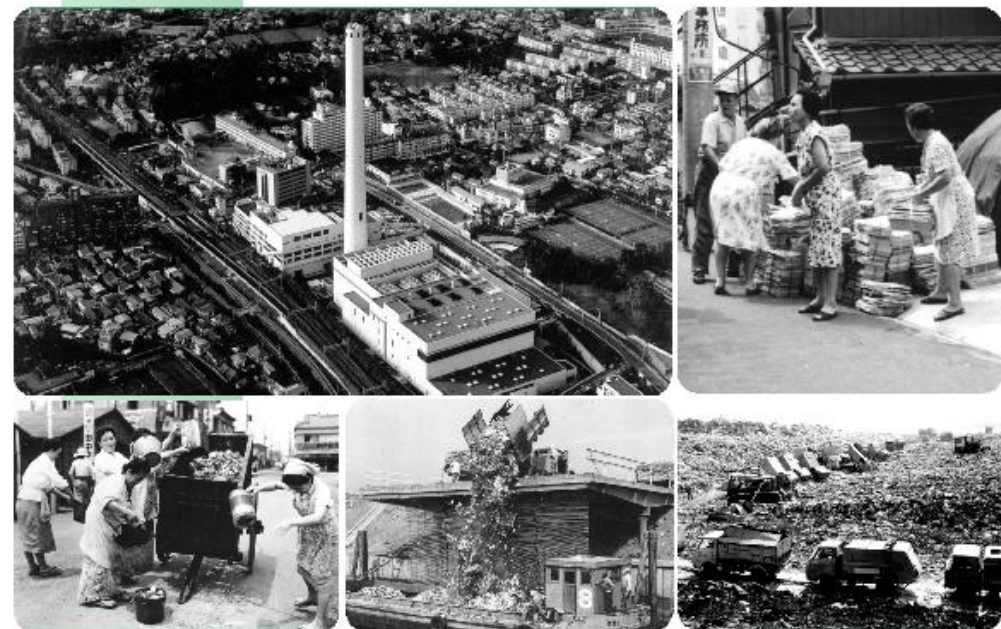
東洋大学

Course Work (Textbook on solid waste management in Japan)



Japan International Cooperation Agency

Japan's Experiences on Waste Management



March 2022
Yachiyo Engineering Co., Ltd.
Japan Environmental Sanitation Center

GE
JR
23-046

JICAの方針で日本の経験を途上国に伝える現場が大学

テキスト「日本の廃棄物処理の経験」
(JICAのページからダウンロード可)

北脇がアドバイザーとして参画

研究室の社会人大学院生(A.I.氏)、
JOCV学生だった(M.Y.氏)等も執筆に参画

(経験知の往還)

大学での学び



技術協力プロジェクトに参画



経験をとりとまとめ



その経験を途上国に還元

Field Visits from Qualitative Research Skills Class

Field Visit @ Iwate pref.(2018)



Field visit @ Yamanashi pref.(2021)





2025
12
Sep

Research Report Session of JICA
Long-term Participants at the
Graduate School of Global and
Regional Studies, Toyo University

14:00~17:00 pm (JST)

Zoom online meeting
Language: English

[How to apply]

If you wish to participate, please register by
5th September at the dedicated website below.
(Partial participation is possible.)

Click here to apply on the dedicated website

[JGRC code](#)

(Scan the QR code on the right
- URL: <https://forms.office.com/9f8587e0701e4400>

For those who have registered, we will inform
you of the Zoom link and password.

In September, nine participants will
complete JICA Development Studies
Program, "the Water Engineering Utility
Management Future Leaders" and "the
Creating Leaders for Clean Cities", which
are implemented by the Graduate School
of Global and Regional Studies, Toyo
University and JICA. In addition, a
Participant under the Project for Human
Resource Development Scholarship (JDS)
program will also complete this program.

With the support of many people in
Japan, including private companies,
government agencies, and water utilities,
they have learned about Japan's water
supply and waste management
experience, and technology.

Therefore, we would like to report the
research results of the ten participants
and the learning in Japan to all those
who support us.

(Head:
Graduate School of Global and Regional Studies, Toyo University
Japan International Cooperation Agency (JICA)

Program

Moderator : Prof. Toshiya ARAMAKI, Toyo University

Opening Remarks

14 : 00

Mr. Hidetake AOKI, Group Director for Water Resources, Global
Environment Department, JICA

Research Report Session1: Water Engineering Utility Management Future Leaders

14 : 05

15 : 20

15min×5 participants (Presentation :10 min, Q&A:5 min)

Ms. GATOBU Grace Gakii

Nanyuki Water and Sanitation Company (NAWASCO), Kenya

"A Study on the Effect of Smart Water Management System
Towards Achievement of Sustainable Water Supply and
Resources"

Mr. MAHLON Owen

Blantyre Water Board, Malawi

"A Study on Water Service Delivery in Relation to the Reduction
of Arrears among the Domestic Customers: Case of Blantyre
Water Board"

Mr. KAYINAMURA Innocent

WASAC Ltd, Rwanda

"Sustainability Assessment of Public-Private Partnership Model for
Piped Water Service Delivery in Rural Rwanda: A Case Study of
Gatsibo District, Eastern Province"

Mr. NTAMUTURANO Desire

WASAC Ltd, Rwanda

"Urban Pipelines Management Using GIS Information in Water
Supply Systems: Case Study of WASAC, Rubavu Branch-Rwanda"

Ms. MANSOUR Zeyyana Seif

Ministry of Water, Energy and Minerals, Tanzania

"Households Willingness to Pay for Improved Rural Water Supply
Services in Zanzibar. A case Study of Kengeja, Southern Pemba."

※ 15 minutes break

Research Report Session2 : Creating Leaders for Clean Cities

15 : 35

16 : 35

15min×5 participants (Presentation :10 min, Q&A:5 min)

Mr. AL-NAZHIR Nehoray Azan

Nausori Town Council, Fiji

"Study on the Feasibility of Waste-to-Energy Incineration for the
Management of Solid Waste in the Greater Suva Area"

Mr. MURONO Kevin Oduor

Health Services of the Ministry of Health, Kenya

"Formalization of Informal Waste Pickers for Sustainable Solid
Waste Management in Urban Cities of Developing Countries: A
Case Study of Mwakirunge Dumpsite in Mombasa County, Kenya"

Ms. OSHIEK Islam Abuamna Onour

Khartoum State Cleaning Corporation, Sudan

"A study on the Recycling of Destruction Waste for The
Enhancement of Reconstruction in Sudan - case in Wad Nubawi ,
Khartoum State"

Ms. ALTILEE Annabelle

Ministry of Climate Change Adaptation, Meteorology, Geo-
Hazards, Environment, Energy and Disaster Management,
Vanuatu

"Vanuatu Context Study on the Improvement of Wastewater and
Fecal Sludge Management Systems. Case Study of Port Vila
Urban and Peri-Urban Areas"

Research Report Session3 : The Project for Human Resource Development Scholarship

16 : 35

Mr. LARCH Socheat

Ministry of Environment, Cambodia

"A Study on Households' Willingness to Pay for improved Solid
Waste Management Services, A Case Study: Kampong Cham City,
Cambodia"

Expectation to the Participants and the Program

16 : 50

Prof. Hidetoshi KITAWAKI and Prof. Toshiya ARAMAKI,
Graduate School of Global and Regional Studies, Toyo University

Closing Remarks

16 : 55

Mr. Kazunao SHIBATA, Group Director for Environmental
Management and Climate Change, Global Environment
Department, JICA

2. 4 国際協力の嚮

(元ゼミ生のN.K.さんの例)

- ・ 中学校教員(隊員OVが多い)により触発→国際地域学科入学→独立直後の東チモールリサーチツアーでラモス・ホルタ氏と面会、NGO活動を経てバングラデシュで卒論→一般就職→協力隊員としてダッカ市(環境教育)→開発コンサルタントでBOPビジネス2件、環境省アジア水環境(ソロモン諸島)等多くの技術協力プロジェクトに参画→主婦として子供の幼稚園やコミュニティで国際協力の啓発→次の世代に嚮をつなげらるか？

国際協力人材の育成は大学に入る前から準備が必要。研究室では高校生向けの受験広報誌、大学生向けの国際協力キャリアガイド等で広報を行っている。



Good Luck!

